

# 囲碁ボール

## 1 概要

囲碁ボールは兵庫県柏原町で生まれました。

その昔、とても囲碁好きな殿様同士が、村人の領地争いを碁の勝敗によって決めたという故事にちなんで「囲碁のまち柏原」をめざし、体力を問わずみんなが楽しめるスポーツとして、囲碁ボールが考案されました。このスポーツは、スティックでボールを打ち、碁盤になった人工芝マットにボールを並べて、得点を競うものです。

## 2 用具

- ・囲碁ボールマット…縦5m横2mの人工芝マットに、49個の目(穴)があります。
- ・ボール…直径7cmの硬質プラスチック製で、白・黒の各10個。
- ・スティック…木製。

## 3 場所・コート

- ・原則的には室内競技ですが、屋外でも地面が平面であれば可能です。
- ・コートは自動車1台分のスペースがあればできます。
- ・5m×2mの人工芝マットに49個の目(穴)があります。

## 4 人数

シングルス(1対1)、ダブルス(2対2)、トリプルス(3対3) 他に変則的な人数でも可能です。

## 5 ゲームの進め方

- (1) 競技はヒットラインよりヒット(スティックでボールを打つこと)したボールをコート目の目(穴)に停止させ、ボールを並べることを競う。
- (2) シングル、ダブルス、5対5が基本的な対戦方法であるが、変則的な人数でも競技できる。
- (3) トス(ジャンケン)で先攻(黒ボール)を決める。
- (4) 黒・白のチームが交互にヒットする。
- (5) 両チーム全てのボールを打ち終わることを「1局」といい、1局が終わればアウトボールを取り除き得点を記録して次の局に入る。
- (6) 次の局は、前局の高得点チームが先攻となる。前局が同点の場合は、前局の先攻チームが引き続き先攻となる。
- (7) 1試合は5局の総合計で決める。ただし、1試合の時間は30分。試合途中で30分が経過した場合、その局は続けられるが次の局は行えない。

## 6 ルール

- (1) 目の底部に接触していないボールは、アウトボールとなり1局終了後、取り除く。
- (2) 1局中に1人が打つボールの数は、対抗する人数によって異なる。
- (3) ヒットするとき、スティックはボールに1回のみ触れることができる。足はヒットラインを踏んでも越えてもよいが、ボールはヒットラインの外に置く。
- (4) 打ったボールが、すでに打って停止しているボールに触れても、反則にならない。
- (5) 1試合は30分で行い、時間内に5局競う。30分を経過した場合は次の局に入らない。
- (6) 得点

・得点には「ライン得点」と「ポイント得点」がある。

### ① ライン得点

ボールが縦・横・斜めのいずれかの目に3つ以上並ぶとライン得点となる。並んだ数を「目(もく)」といい、できた組数を「連(れん)」という。6つ以上並んだ場合は得点とならない。(ポイント得点にはなる。)

### ② ポイント得点

目(め)に停止しているボール数がポイント得点となる。

チームのボール10個すべてが、どこかの目(め)に入った場合はポイント得点10の他に、特別にライン得点「5目1連(5もく1れん)」が与えられる。

(例)

ライン得点…黒=なし、白=4目1連と3目1連

ポイント得点…黒=5、白=6

## 7 勝敗の判定

●まずライン得点でみる。

- (1) 全局の中で、「5目(もく)」で「連(れん)」の数が多いチームを勝ちとする。
- (2) (1)で同点の場合は、以下「4目」「3目」の「連」の多いチームを勝ちとする。

●ライン得点と同じ場合は、次にポイント得点でみる。

- (1) ポイント得点の多いチームを勝ちとする。
- (2) ポイント得点も同じ場合は、いずれかの局で高い得点のあるチームを勝ちとする。

\* 全てが同点の場合はジャンケンで決める。